

Wireless LAN Diagnostic Service

Wireless LAN Diagnostic Service

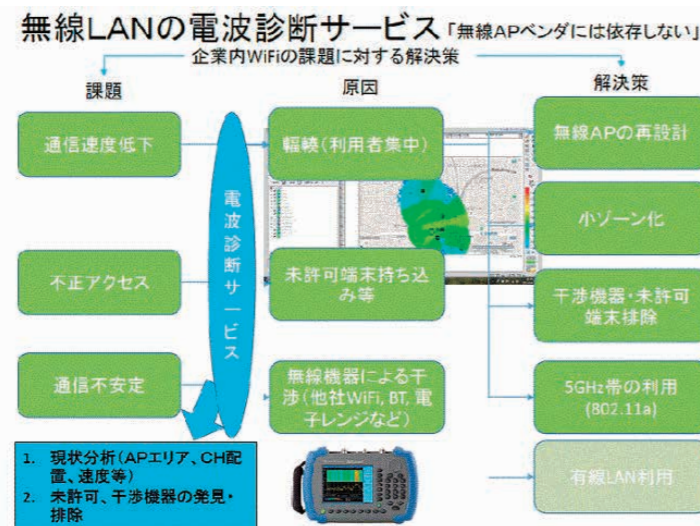
電波環境を最適化する高度な可視化技術を結集。

無線可視化ツール (Airmagnet; Fluke 社) とスペクトラム・アナライザを使用して現状の把握を実行し、アクセスポイントごとの受信エリア、受信レベル、雑音レベル、信号対雑音比、使用チャンネル、チャンネル帯域幅、干渉レベル、データレートなどを可視化するとともに、電子レンジ、コードレス電話などの外部からの干渉をスペアナで把握します。可視化の状況に合わせて、干渉を低減させるためのチャンネル変更、不感地への無線アクセスポイントの増設、高トラヒックエリアに対する小ゾーン化、5GHzへの周波数変更などの対策案を提示します。不正アクセス対策は、偽装APの有無、不正端末の持ち込み有無、暗号化方式の把握を行い、偽装APと不正端末の除去、暗号方式の強化を提案します。定期的な診断によって前回の差分を表示し、電波環境がどのように悪化したか可視化できます。

無線LAN 定期電波診断サービスの料金は、100㎡又は無線AP1台当たり5万円です。

無線LAN 定期電波診断サービス
企業で導入が進むタブレット、スマートフォンなどの通信手段である無線LAN (WiFi) を快適に使用できる環境を創造しています。

無線LANで使用する2.4GHzの周波数帯は、電波干渉、不正アクセスが多いため、無線LANの定期的な診断によって快適で不正のない電波環境を実現しています。



無線LAN 定期電波診断サービス

無線LAN (WiFi) の通信速度、電波干渉状況、不正アクセスを定期的に診断。

セールスポイント

あらゆるベンダに対応可能。業界初の運用後の電波診断サービス。

これまでの電波診断は主に、構築時に実施していましたが、運用後に実施する電波診断サービスは業界初です。無線APのベンダには依存せず、あらゆるベンダに対応可能です。

メリット

不正アクセスによる情報漏洩をすぐにキャッチ。外部や内部からの不正アクセスによる情報漏洩を早期発見し、通信速度が不安定な状況から解放され、快適に無線LANを使用できます。無線APのベンダには依存しないので、マルチベンダで構築しているユーザーに特にお奨めです。無線を可視化するため、無線APの増設をしなくても、チャンネル変更によって対応できますので、投資が抑えられます。

お薦めしたいユーザー

複数の無線APを保有するユーザー、特に病院、学校、ホテル、ショッピングモール、工場、倉庫、オフィスなどにお奨めします。

Company Profile

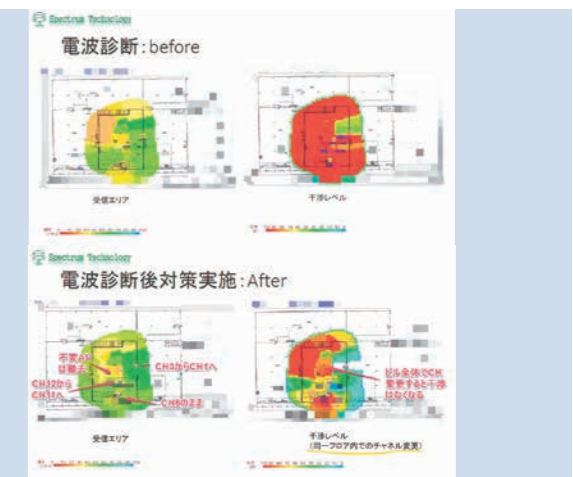
スペクトラム・テクノロジー株式会社は、WiFiおよびM2Mの電波調査事業、無線の可視化事業を主体に、無線の可視化によって社会に快適な無線LAN (WiFi)、M2M環境を提供しています。特に2.4GHz帯は輻輳によって年々通信効率が低下するため、定期的な電波調査診断を行ない、無線可視化ソフトによる状況把握と最適な電波診断対策をユーザーに提案しています。

スペクトラム・テクノロジー株式会社 

本社所在地: 〒359-1115 埼玉県所沢市御幸町1番16-1308号
TEL 04-2990-8881
<http://spectrum-tech.co.jp/>
製品に関する問合せ先 (お見積など)
担当者: 村上 正彦
TEL 04-2990-8881 E-mail m.murakami@spectrum-tech.co.jp

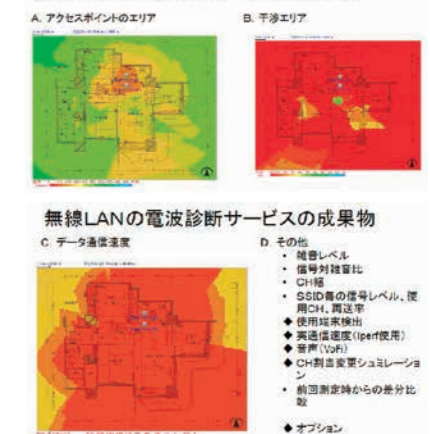
Case Example

物流業のお客様で、業務繁忙期に無線LANの通信が不安定になり、遅くなったりする。電波診断を実施し、無線LANのチャンネルが重複していたために、電波干渉が発生していた。無線APが4台あるフロアで、1台撤去。2台はCH変更により改善。今後ビル全体で見直し予定。



data security standard) がクレジット業界で設定されており、4半期に1回は無線LAN環境のテストを実施し、不正アクセスがないか検証することと定義されています。<https://ja.pcisecuritystandards.org/minisite/en/pci-dss-v3-0.php>
◆その他、特筆すべき点は? 無線は、限られた資源のため管理された周波数・送信出力の使用が義務づけられています。当社は、無線の最高資格である、第1級陸上無線技術士、第1級総合無線通信士の人材を有しています。

無線LANの電波診断サービスの成果物



◆開発の目的や意図は? 無線は見えないので通信状況を把握できません。これまで各ベンダが設計に使うために構築時に可視化を行なっていましたが、一般のユーザーには有効に提供できていませんでした。ユーザーは、ベンダの設計に応じて無線APを増設していましたが、現在、無線LANの主流の2.4GHz帯は、輻輳により年々通信効率が低下しています。当社は、無線LANの運用後に無線の可視化を提供し、構築時とどのように環境が変わったか見える化します。ユーザーが対策を判断できる情報を提供し、快適な無線環境を実現します。さらに、外部及び内部からの不正アクセスを早期に発見することによって、情報漏洩の被害を最小限に留めます。

◆信頼性の根拠やデータは? 1. 情報セキュリティ対策の必要性を総務省で啓蒙している「企業等が安心して無線LANを導入運用するために」(平成25年1月30日)の、2. 2の管理面の対策(4)電波状況の監視、3. 3運用段階で実施すべき事項(3)許可されていないAPの設置状況の監視、22.4GHzの干渉、5GHz利用促進について(総務省「無線LANビジネス研究会」(平成24年7月20日)の2無線LANに係る電波の干渉・輻輳の緩和。

◆コストパフォーマンスは? 電波診断サービスは、無線AP当たり5万円の価格を設定。無線APを1台増設すると機器+工事で約10万円かかり、チャンネル変更すると電波診断サービス分+設定変更分となり、安価になります。たとえば、情報漏洩すると、1件500円×1万件=500万円を損害賠償として払うようになります。(ベネッセの例)

◆国際基準規格への対応は? PCI-DSS (payment card industry-